

1 「子ども☆ミライ会議」

2040年の八王子～八王子はわたしたちがつくるまち～の実施について

本市では、平成13年(2001年)2月、「子どもの権利条約」の考えを取り入れ、「八王子市子どもすこやか宣言」を行い、それに基づいた「子どもの参加する権利」を具現化する会議を開催してきました。

子どもの権利を大切に、「子ども会議」、「子ども議会」、「子どもミーティング」、「子ども意見発表会」、「子ども☆ミライ会議」と、参加対象や形式を変えながら実施してきました。

平成29年度(2017年度)に市制100周年記念事業の基幹事業の一つとして「子ども☆ミライ会議」を開催し、子どもが『ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」』(以下、『ミライへの提言』という。)をまとめました。

この『ミライへの提言』や若者施策の充実の視点をもって、本市の「子ども・若者育成支援計画」が策定され、子ども・若者の意見が尊重されるまちづくりを進めています。



本市の「子ども☆ミライ会議」の特徴は、子ども・若者育成支援センター(以下、「センター」という。)があることです。センターにおいては、子どもの意見が見える形にする取り組みを日常的に行っています。

そして、そのセンターの職員が「子ども☆ミライ会議」のファシリテーター役となり、「子ども☆ミライ会議」の参加経験者の学生サポーターと社会人アドバイザーが支援することで、年齢や個性が多様な子どもたちが、お互いを尊重しながら意見表明できる環境をつくっています。

令和5年度(2023年度)の「子ども☆ミライ会議」は、「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子⁽¹⁾」の中で開催しました。「私たちができる日本遺産の魅力を活かしたまちづくり」を全体テーマとし、「日本遺産」について学びながら、自分たちに何ができるかをグループごとに話し合い、意見としてまとめました。市役所や図書館を利用して、調査をする子もいました。当日は、グループごとに市長・教育長に意見発表を行い、コメントを頂きました。

(1) 日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子

文化庁が認定する日本遺産の魅力を発信するイベント。令和5年11月4日と5日に開催され、地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語る全国104の物語(ストーリー)が集結した。

2 ミライへの提言『八王子はわたしたちがつくるまち』と子どもの意見

(1) ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」

「八王子はわたしたちがつくるまち」

- ① 子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち
- ② 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち
- ③ 元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち
- ④ 自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち
- ⑤ 商工業によって栄え、交通が便利なまち

平成 30 年 2 月 4 日 子ども☆ミライ会議 子ども大使一同



(2) 提言における子どもの意見

① 「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」

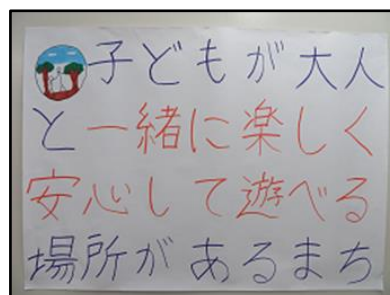
大人も子どもも安心して遊べる大きい公園、アスレチック公園があるといいと思います。

八王子市にはたくさんの自然があり、公園もたくさんあります。

その自然を最大に活かして、公園の中に図書館や大人と子どもと一緒に過ごすことのできるカフェやアスレチックなど、体を自然の中で動かすことのできる公園があるといいと思います。

私たちは、子どもたちが楽しく安心して遊べるようにするため、大人に頼るだけではなく、時間がある時には公園で遊んでいる子どもの見守りに取り組みます。

また、子どもは自分の近くの公園しか知らないので、八王子市の公園や自然のアピールを積極的にしてほしいと思います。

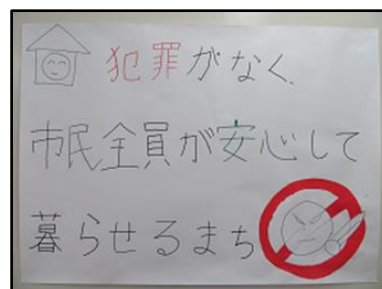


② 「犯罪がなく市民全員が安心して暮らせるまち」

不安な中では、子どもは地域に自由に出ていき、地域の大人と交流することができません。

そのために私たちは、地域の危険なところを知り、それを地域の人に伝え、子どもたちへの呼びかけやパトロールに地域の大人と一緒に取り組みます。

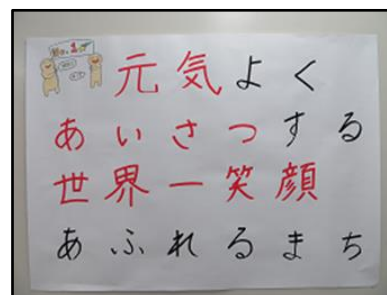
また、子どもから高齢者までが、段差をなくして、スロープにするなど住みやすい環境を作るとともに、顔を知り、互いに交流できる市民の憩いの場を作ってほしいと思います。



③ 「元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち」

八王子のまちは、人と人との交流が大切にされるまちになります。そのために私たちは、はずかしがらずに地域の人に、「おはようございます」などとあいさつをして、自分から積極的に人との交流を大切にすることに取り組みます。

また、人の交流と笑顔があふれるように、新しいことを始めるのではなく、八王子にある豊富な資源を有効活用して、映像や情報誌でPRし世界に発信します。



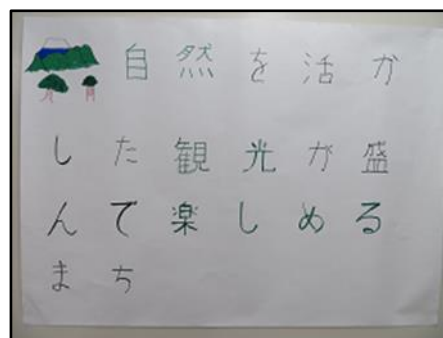
④ 「自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち」

自然を活かし、観光で人を他地域から呼んでまちの活性化を図ります。

そのためには、子どもの目線で、八王子の良いところや歴史深い街並み、著名人、緑豊かな自然を全面的に伝えるために、プロジェクトを組んで活動に取り組みます。

そして、観光が盛んになるだけでなく、子どもから高齢者まで、安全に過ごせるバリアフリーが当たり前のまちになります。

また、自然を活かしたきれいなまちであり続けるために、クリーン活動、自主的なごみ拾い、ごみの分別をしっかりとするなどして環境を壊さない活動を行うことに取り組みます。



⑤ 「商工業によって栄え、交通が便利なまち」

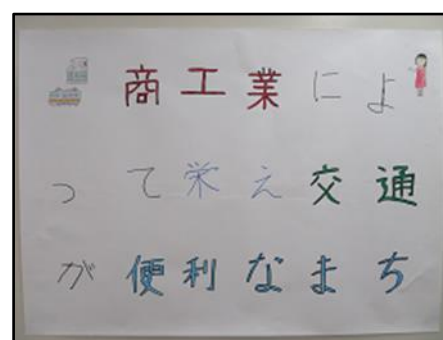
八王子のまちは、子どもと企業が深くかかわる機会があるまちになります。

そのために私たちは、公共交通機関を利用し、八王子市の商店街で買い物をすることに取り組みます。

また、公共交通機関の発達子どもや高齢者の移動に有効で、人と人の交流が図られることにもつながります。

私たちが、地元の産業や中小企業の技術力を子どもたちに宣伝し、さまざまな職種の人と話しをして将来の道を考えていきます。

生活と仕事に密着したことにより住みよいまち、住み続けたいまちになると思います。



3 令和5年度（2023年度）「子ども☆ミライ会議」のスケジュール


6月1日（木）～ 6月12日（月）	<ul style="list-style-type: none">・子ども企画委員募集・学生リーダー・アドバイザー募集
申し込み完了～ 6月24日（土）	<ul style="list-style-type: none">・事前自宅学習 「日本遺産」について知りたいこと 「日本遺産の魅力を生かしたまちづくり」 について私たちができること
6月14日（水）	<ul style="list-style-type: none">・学生リーダー、アドバイザー オリエンテーション開催
6月25日（日）	<ul style="list-style-type: none">・第1回子ども企画委員ワークショップ開催
7月23日（日）	<ul style="list-style-type: none">・第2回子ども企画委員ワークショップ開催 （はちやく見学）
7月23日（日）～ 8月19日（土）	<ul style="list-style-type: none">・事前自宅学習 グループで決めたテーマについて 意見や理由をまとめる
8月20日（日）	<ul style="list-style-type: none">・第3回子ども企画委員ワークショップ開催
11月5日（日）	<ul style="list-style-type: none">・「子ども☆ミライ会議」開催
令和6年（2024年） 2月11日（日）	<ul style="list-style-type: none">・「サテライト 子ども☆ミライ会議」開催

4 参加者募集（子ども企画委員）


小学5年生から高校生世代までを対象に、ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」を具現化するために、実践案を検討し発表をする子ども企画委員を募集しました。

28名（小学5年生10名、小学6年生5名、中学1年生6名、中学2年生4名、中学3年生3名）の参加がありました。

【「子ども☆ミライ会議」～「八王子はわたしたちがつくるまち」八王子から全国へ～】



子ども企画委員を募集！




「八王子市子どもすこやか宣言」の推進事業の一環として、子どもの声や意見を受け止め、市政に反映するために「子ども☆ミライ会議」を開催します。
2040年の八王子へ向けたまちづくりについて、市長・教育長へ意見発表をする小学5年生から高校生世代までの子どもたちを募集します。


「私たちができる日本遺産の魅力を生かしたまちづくり」について、6月から8月にかけてワークショップで意見をまとめていきます。
「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」の開催期間の11月5日(日)に「子ども☆ミライ会議」本番を開催します。

【プログラム】

- ① **令和5年(2023年)6月25日(日) 第1回子ども企画委員ワークショップ**
時間：午前10時～正午 会場：学園都市センター セミナー室5
●オリエンテーションと学習～日本遺産について学ぼう！～
●意見交換、グループ決め
- ② **令和5年(2023年)7月23日(日) 第2回子ども企画委員ワークショップ**
時間：午前10時～正午 会場：桑都日本遺産センター八王子博物館(はちはく)
●フィールドワーク～日本遺産について理解を深めよう！～
- ③ **令和5年(2023年)8月20日(日) 第3回子ども企画委員ワークショップ**
時間：午前10時～正午 会場：学園都市センター セミナー室5
●意見交換、グループの意見整理～当日に向けて意見をまとめよう！～
- ④ **令和5年(2023年)11月5日(日)「子ども☆ミライ会議」本番**
時間：午前10時～午前11時30分 (活動時間：午前9時～正午)
会場：東京たま未来メッセ




【発表の様子】



【ワークショップの様子】

【対象】小学5年生から高校生世代まで
【定員】20名(定員を超えた場合は抽選)
【申込期間】令和5年(2023年)6月1日(木)から6月12日(月)まで
【申込方法】「子ども☆ミライ会議申込書」に必要事項を記入し提出してください。
参加可否について、6月15日(木)までに連絡いたします。
【参加費】無料(会場までの交通費は自己負担となります。)
【その他】●上記プログラム1回の参加につき500円分の図書券を用意します。
●できるだけすべてのプログラムに参加してください。
●プログラムの内容に変更がある場合があります。
●八王子市やメディアが写真や動画の撮影を行うことを承諾ください。また、八王子市ではPRや報告等のため、メディアにおいては放映等のために、これらの写真や動画等を事前連絡せずに使用することについて承諾の上、お申込みください。



「子ども☆ミライ会議申込書」はこちらから！

【申込み・問合せ先】
八王子市子ども家庭部青少年若者課川口児童館
〒193-0801 八王子市川口町3974
TEL 654-4757 / 070-1276-9229 FAX 654-4757
Email Kodomo-miraikaigi@city.hachioji.tokyo.jp (青少年若者課 子どもミライ会議用)

【子ども企画委員募集案内】

5 第1回子ども企画委員ワークショップの様子

令和5年（2023年）6月25日（日）、小学5年生から中学3年生までの25名が参加し、学園都市センターセミナー室にて、「子ども☆ミライ会議」第1回子ども企画委員ワークショップが行われました。今年度は、令和5年（2023年）11月4日（土）・5日（日）に東京たま未来メッセで開催される「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」に合わせて「私たちができる日本遺産の魅力を活かしたまちづくり」を全体テーマに意見をまとめていきました。

はじめに、青少年若者課長が子ども企画委員一人ひとりに「子ども企画委員カード」を授与しました。続いて、「子ども☆ミライ会議」のこれまでの経緯と子ども企画委員の役割について、パワーポイントの資料を見て学びました。



また、八王子市の日本遺産推進担当の職員と高知県の日本遺産協議会の方に「日本遺産認定ストーリー」の説明を受け、日本遺産についての関心を高めました。

その後は、5つのグループに分かれて事前学習をもとに自分たちの意見を話し合うグループワークを行いました。学生リーダー・アドバイザーが進行役となり、「日本遺産について興味・関心があること」や「日本遺産についてもっと知りたいこと」について、一人ずつ意見を出し合いました。同じ意見が出たり、異なる視点の意見があったり、と意見交換を通して様々な発見がありました。意見は1つずつ付箋に書き出し、それを模造紙にまとめて整理していきました。

最後には、「子ども☆ミライ会議」本番に向けて検討したいと思うテーマをグループ内で話し合っ

て1つに絞り、各グループのテーマを発表しました。限られた時間で意見をまとめるのは大変な様子でしたが、委員がみんな協力し合い、無事に1回目のワークショップを終えることができました。



6 第2回子ども企画委員ワークショップの様子

令和5年（2023年）7月23日（日）、小学5年生から中学3年生までの27名が参加し、桑都日本遺産センター八王子博物館（はちはく）にて第2回子ども企画委員ワークショップを開催しました。学生リーダー・アドバイザーも子どもたちをサポートするために、事前に企画会議を開催し、臨みました。



子ども企画委員は、第1回子ども企画委員ワークショップで、各グループがそれぞれ仮決定したテーマについて再検討するため、桑都日本遺産センター八王子博物館（はちはく）の学芸員から、展示物についてレクチャーを受けました。「霊気満山 高尾山」、「八王子のまちと人びと」、「滝山城と八王子城」、「桑都と織物」のテーマ展示について真剣にレクチャーを聴き、テーマにつながる情報を書き留めていました。学芸員に「八王子のまちの名前の由来や、どのように変遷した歴史があるのか」「どのような伝統文化があるのか」など、地域の歴史的な魅力や特色を学び、文化と伝統のストーリーを理解できた様子でした。

展示の見学の後、グループでテーマについて意見交換を行い、各グループのテーマを決定しました。



グループ	テーマ
1	日本遺産について知ってもらう方法
2	昔から学ぶ新しい桑都・八王子～日本遺産を知る機会を増やすこと～
3	八王子の子ども達に八王子の魅力を知ってもらい、未来に繋げる方法
4	外国人にアピールしたい！高尾山の魅力
5	桑都物語のストーリーがどのように決まったか

7 第3回子ども企画委員ワークショップの様子



令和5年（2023年）8月20日（日）、小学5年生から中学3年生までの24名が参加し、学園都市センターセミナー室にて、第3回子ども企画委員ワークショップを開催しました。本番前の最後のワークショップのため、参加した子ども企画委員からは、真剣な眼差しで意見交換や作業をする様子が見られました。

た。

子ども企画委員は、第2回子ども企画委員ワークショップで「桑都日本遺産センター八王子博物館（はちはく）」の学芸員からレクチャーを受けた後、各自でインターネットや図書館等を利用して、更に学びを深めていた様子でした。なかには、八王子市役所の文化財課を訪問し、聞き取りを行った子ども企画委員もいました。

お互いに調べてきた内容についての情報交換を行い、各グループのテーマについて、当日、市長や教育長に発表したい意見の内容を話し合いました。話し合いでは、何を一番に伝えたいのか、そのように考えた理由は何かなどを出し合い、学生リーダー・アドバイザーがリードしながらグループの意見をまとめていきました。

「子ども☆ミライ会議」の本番の発表方法や原稿、プレゼンの資料作りなども短い時間の中で行いました。グループごとに「原稿作成者」や「発表者」、「資料作り」など役割を分担し、効率よく話を進めていきました。

原稿作成では、「文字や伝えたいことを“言葉にする”」という面で、苦勞している様子が見られましたが、上級生や学生リーダー・アドバイザーからアドバイスを受けながら、みんなで協力して作り上げていました。



発表者は、どの部分を担当するか割り振りを決め、本番を想定して実際に言葉に出して、原稿を繰り返し読む姿がありました。

グループによっては、言葉だけでは伝わりにくい部分を補うために、様々な方法を考えていました。ポスターやスライドを作成し、より正確に、より印象的に意見が伝わるような工夫があり、大人顔負けのプレゼン資料もありました。時間内に原稿やプレゼン資料が出来上がらなかったグループもありましたが、本番までに完成を目指して、自宅等でも取り組み仕上げるなど、各人の熱意が伝わってきました。



8 「子ども☆ミライ会議」2040年の八王子 ～八王子はわたしたちがつくるまち～ の様子

「子ども☆ミライ会議」開催！

11月5日（日）、東京たま未来メッセで行われた「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」の中で、「子ども☆ミライ会議」を開催しました。小学5年生から中学3年生までの子ども企画委員25名が参加し、「私たちができる日本遺産の魅力を活かしたまちづくり」をテーマに、これまで3回のワークショップで話し合った意見を、市長・教育長に向けて発表しました。当日はリハーサルを行ってから、本番に臨みました。



「子ども☆ミライ会議」の様子

☆リハーサル☆

子ども企画委員は、緊張した面持ちでグループごとに席に座り、原稿に目を通し、学生リーダー・アドバイザーのサポートを受けながら、発表の練習を繰り返していました。また、入場や本番の進行も確認しました。



グループの意見をしっかりと伝えることができるように、声の大きさやマイクの使い方、目線などに気を配り、真剣な表情で最後までリハーサルをやり遂げました。

☆本番☆

観覧者の拍手を受けながら、緊張した様子で、子ども企画委員は入場しました。発表前には、市長・教育長と一緒に「YES・NO」カードを使って「緊張していますか？」という質問に答え、緊張をほぐしました。子ども企画委員は、「緊張よりも楽しみ」の気持ちが強く、ワクワクしている様子でした。また、発表の合間には、個々に配られたホワイトボードに意見を書いてやり取りをするなど、終始和やかな雰囲気でした。



▼グループごとの発表テーマ▼

- 1 グループ 「日本遺産について知ってもらう方法」
- 2 グループ 「昔から学ぶ新しい桑都・八王子～日本遺産を知る機会を増やすこと～」
- 3 グループ 「八王子の子ども達に八王子の魅力を知ってもらい、未来に繋げる方法」
- 4 グループ 「外国人にアピールしたい！高尾山の魅力」
- 5 グループ 「桑都物語のストーリーがどのように決まったか」

これらのテーマをグループ毎に発表しました。どのグループも「私たちができる日本遺産の魅力を活かしたまちづくり」という大きなテーマに対して“熱い思い”を、感じられる内容でした。市長・教育長から、多くの激励の言葉をもらい、子ども企画委員のうれしそうな表情も見られました。



ホワイエには、会場の様子を映した中継モニターを設置し、会場が満席で中に入れなかった人や一般来場者にも、発表の様子がわかるようにしました。また、各センターの子どもたちが作成した「日本遺産のPRポスター」もあわせて掲示しました。

ワークショップから子どもたちと共に活動し、意見形成に携わってきた学生リーダーやアドバイザーも、担当したグループの後ろでマイクの受け渡しや見守りをして、子ども企画委員に寄り添い、サポートをしていました。

